

講演会

『和楽の世界 狂言への誘い』



日時 4月28日 金曜日 19時～20時30分
講師 小笠原 匡 (おがさわら ただし)

能楽師狂言方和泉流 公益社団法人・能楽協会会員
日本能楽会会員 重要無形文化財総合指定保持者

内容 狂言小舞、狂言 (若菜の会) 狂言レクチャー 狂言の体験

※入場無料、要予約

resa@tenri-paris.com または 01 44 76 06 06)

Association Culturelle Franco-Japonaise de TENRI

天理日仏文化協会

8-12, rue Bertin Poirée Paris <http://www.tenri-paris.com>

E-mail : resa@tenri-paris.com Tel : 01 44 76 06 06

第1部 〈若菜の会〉

狂言独吟「掛 川」 謡 大山裕之 後見 小笠原匡
狂言小舞「柳の下」 舞 宮川晴代 地謡 小笠原匡 小笠原弘晃
狂言小舞「よしの葉」舞 大空夢湧子 地謡 小笠原匡 小笠原弘晃
狂言「清 水」主人 小笠原匡 太郎冠者 金蔵院葉子 後見 小笠原弘晃

・“若菜の会”とは

能楽師狂言方・小笠原匡（重要無形文化財総合指定保持者）が主宰する狂言愛好家による アマチュアサークルで、東京・千葉・京都・大阪各所にて毎月2回狂言稽古を行い、1年に1度研鑽披露の会を日本国内の寺社仏閣や能楽堂にて催している。

・“狂言小舞”とは

狂言に伝わる鎌倉、室町時代の流行歌（中世歌謡）

・狂言『清水』あらすじ

茶の湯の会の準備の為、主人は太郎冠者を野中の清水へ水汲みにやる。冠者は、来客の度に水汲みをさせられるのを迷惑がり、清水に鬼が出たと嘘をついて桶をおいて戻ってくる。不審に思った主人は清水まで見に行くと云うので、冠者は先回りをして鬼の面を着けて待ち伏せをして、やって来た主人に日頃のうっづんを晴らす為散々に脅かすが…。

第2部 狂言レクチャー・デモンストレーション

狂言についての知識や演技方法等、実演を交えながら解りやすく説明致します。

狂言の歴史、狂言の簡素な舞台の意味、そして次に狂言独特の演技方法、小道具（扇の使い方）などの約束事をお話し致します。

第3部 さあみんなでやってみよう

狂言の泣き笑いなど“喜怒哀楽”の代表的な演技や身体パフォーマンスとしての“声”を体感して頂きます。今に通じる中世庶民の流行歌・狂言歌謡（狂言の中で謡われる歌は、そのほとんどが中世の庶民が口ずさんでいた流行歌）を皆さんと一緒に楽しく口ずさみ、当時のおおらかな世界観をご体験頂きます。

狂言は能に比べると相対的には写実的なせりふ劇ですが、筋の展開上、酒宴の余興やその筋と主題に即した歌謡を挿入することも多く、様々な曲が伝承されています。

何かと忙しい現代から離れて、650年前にタイムスリップしてみませんか。

ほんの一時、貴方も“狂言師”になってみましょう！！